

昭和58年度 組織的調査研究活動推進事業報告書

（石垣島におけるシャコガイ漁業）

（石垣島におけるシャコガイ漁業）

（調査期間） 昭和58年10月～12月

村越正慶（報文とりまとめ）

（調査地域） 石垣島

（調査対象） シャコガイ

1. 調査活動地域名

石垣市

2. 調査活動地域の選択理由

本県周辺は広大なサンゴ礁にかこまれ熱帯性の二枚貝であるシャコガイ資源に恵まれており、サンゴ礁の水産的有効利用と沿岸漁業の振興策の一つとして、シャコガイの大巾な生産増が期待されている。しかしながら生産量は昭和50年の578トンから昭和55年には184トンに減少しており、今後シャコガイ漁業の振興を図るには、種々の問題があるものと考えられる。

石垣市は沖縄本島から南西方向約440kmに位置しており、八重山諸島の中心をなす市である。石垣島周辺海域はサンゴ礁がよく発達し、特に石垣島と西表島の間には石西礁湖を形成し、1漁協の管理下内にシャコガイの好漁場を有しており、シャコガイ漁業の盛んな地域である。しかし同地域のシャコガイ生産量も昭和50年の213トンから昭和55年には31トンと激減しており、本県におけるシャコガイ漁業の諸問題を集約的に内包するものと考えられる。

3. 県内における選定地域の位置づけ

石垣市においては主として、沿岸かつお1本釣り、底魚1本釣り、延縄、追い込み網、刺網、採貝、採草等の漁業が営まれており、経営体の92.2%は3トン未満の動力船使用か非使用で占め、個人経営99.1%の零細漁業地域である。同地域の漁業経営体数の変動はそれ程大きくはないが、減少傾向にある。しかしながら沿岸漁業生産量は年毎に変動するものの昭和53年を境に最近微増し、沿岸依存率が高くなり、資源量の枯渇が懸念される種類もある。特にシャコガイ資源においてはその傾向が著しい。そこで同地域のシャコガイ漁業を振興する上での諸問題を明らかにし、その対応策を検討することによって、本県におけるシャコガイ資源の有効利用を促進し、沿岸漁業の振興をはかるための波及効果が期待される。

4. 調査研究チームの構成

1) 総括責任者

水産試験場八重山支場 支場長 友利昭之助

2) 研究部門担当者

水産試験場八重山支場 研究員 村越正慶

3) 普及部門担当者

水産試験場八重山支庁農林水産課 普及員(水産係長) 玉城正雄

〃 (技師) 諸見里聡